

## 「桑折町政策推進有識者会議」（桑折町）（令和元年度）

ふくしま自治研修センター  
総括支援アドバイザー兼教授 奥原 英彦

## 「桑折町政策推進有識者会議」（桑折町）（令和元年度）

桑折町では、令和2年度から着手する「新総合計画」の策定に生かすため「桑折町政策推進有識者会議」を令和元年度に設置。

奥原は有識者会議の委員長として、下記の支援を行った。

- (1) 3回の「有識者会議」の「運営」「総括と政策展望」  
(9/27（注1）、11/1（注2）、3/30（注3）)
- (2) 有識者会議での各委員の意見を「提言書」（注4）としてとりまとめ、それを高橋町長に手渡し（12/19）（注5）
- (3) 総合計画策定に関する庁内職員向けの「講演」（12/19）（注6）

（注1） 9/27における各委員発言の総括と政策展望

- ① 政策は横連携で波及していく。一事業のKPIを評価するという観点もあるが、KPIに直接表れない他の事業に効果が繋がっていく可能性もある。「こちらにも効果が出ている」というところをぜひ見直していただければと思う。それが、横軸的な施策の立案につながる。
- ② まちづくりは、モノ作りだけで終わりではなく、関連した「人づくり」が重要。桑折町は、ほかの自治体より力が入っていると思う。後継者や指導者の育成が、次世代の子どもを育てる際に非常に重要な機能を果たす。どうやって行政が支援していくか、検討をお願いしたい。
- ③ まちづくり、住みやすさについて、各事業のターゲットを明確にし、ターゲットに沿った形のKPIも見て頂きたい。KPI指標は（どうしても）ひとづくりとなるが、例えば、年代による偏りなどが裏に隠れている。それらを把握できれば、次の政策立案の際、弱点を補強する、強いところを伸ばしていくという形で、いろいろな事業展開が見えてくる。そういう視点で、30年度の成果を見直しながら翌年度以降の計画づくりを検討されてはと考える。

（注2） 11/1における各委員発言の総括と政策展望。

- ① 各分野の担当者が他課との相互（横）連携を意識しながら事業を行う。  
今までは自然、産業、町民の生活、文化歴史を各部署で別々のものとして取り組んできたが、これからは「横連携の視点」で考えてほしい。
- ② 各部署における事業のマネジメントの中で（例えば）「健康」に関する視点を考

えること。例えば、地域整備分野であれば（単にハード整備だけではなく）「歩きやすく健康になる町づくり」について考えるということ。

③ 地域経済を確固たるものとする。

現在、桑折町は2次産業中心となっているが、今の日本（の地域）経済では2次産業の2～3倍の地域GDPがなければ地域が活性化してこない。

例えば、かわまちづくりに応じた物品販売の積極的支援等。サービス産業の向上に伴って、質の高い雇用も創出され、経済的にも豊かになり、長期的に見れば人口増加につながっていく。

(注3) 3/30における各委員発言の総括と政策展望

① 環境、住民の価値観は変化するので10年後のことを考えられるよう、時間軸を整理して施策を考える必要がある。

② 温故知新の考えで町の歴史的背景を有効活用する。

歴史的なものをうまく活用して町の特色とする。現在の施策においても歴史的背景に基づくものであることを付け加えていけば、商業においても他町との差別化ができる。

③ バックキャスティング思考を入れて事業を整理する

現状の課題から10年後までに必要な政策を考える【フォアキャスト思考】だけでなく、10年後の町を想像してから今必要なものを考える【バックキャスティング思考】を入れて事業を整理する。

フォアキャスト思考だけでは現在の不足を補おうとするため、業務が増加傾向となり、かつ、短期的な対応になりやすい。バックキャスティング思考の場合、将来を見据えた中で現状必要なもの考えるので、無理のない施策が立案しやすい。

(注4) 桑折町政策推進有識者会議提言書（桑折町ホームページ）

： [令和元年年12月19日 \(town.koori.fukushima.jp\)](http://town.koori.fukushima.jp)

(注5) 高橋町長への手渡しの様子（桑折町ホームページ）

： [令和元年度「桑折町政策推進有識者会議」開催と提言／桑折町公式ホームページ \(town.koori.fukushima.jp\)](http://town.koori.fukushima.jp)

(注6) 講演内容：（別添 資料） 参照

以上